



| | |
|------------------|---|
| Title | カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリアントの分析 |
| Author(s) | 浦井, 康男; Urai, Yasuo |
| Citation | 北海道大学文学研究科紀要, 124, 49(左)-102(左) |
| Issue Date | 2008-02-15 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/32428 |
| Type | departmental bulletin paper |
| File Information | URAI.pdf |



カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』における
テキスト・バリエントの分析

浦 井 康 男

カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』における テキスト・バリエントの分析

浦 井 康 男

§1 はじめに

1790年に1年余りの西欧旅行から戻ったカラムジンは、帰国直後の1791年から、雑誌「モスクワ・ジャーナル」を刊行した(1791~92年、全8巻)。そこには『ロシア人旅行者の手紙』の前半や「あわれなリーザ」、「貴族の娘ナターリア」等の作品が含まれ、彼は一躍時代の寵児となった。ロシア文学におけるカラムジンの貢献という観点からは通常、センチメンタリズム文学代表作の「あわれなリーザ」を始めとする諸作品が重要視されるが、近代ロシア文章語史の立場から見ると、この雑誌にほとんど毎回掲載され、雑誌全体の約4分の1の分量を占める¹『ロシア人旅行者の手紙』(以下『手紙』と省略)が、語学資料として重要な意味を持つ。

この雑誌は、「作者と読者をつなぐ新しい空間を創造し、読者を育成した」とされ²、ロシアに新しい読書界を産み出したが、そこではさまざまな新しい文学的な試みと共に、色々な言語的実験も行われた。藤沼氏は『手紙』に含まれる文体として、議論、客観的記述、批評、自然描写、ユーモア、物語り(の要約)、純粹の手紙文、会話の文体をあげ、「ここには十八世紀末に形成さ

¹ 藤沼(1997), p. 247

² ibid. p. 278

れはじめ、十九世紀前半に完成した新しいロシア語にとって可能なすべての文体が展示されている」と述べている³。

『手紙』は、彼の生前に何度も版を重ね、その度にカラムジン自身による改訂が加えられた。このテキスト改訂過程については、1899年に刊行されたシポフスキイの「『ロシア人旅行者の手紙』の作家カラムジン」⁴の詳細な分析が広く知られ、またこの問題についての唯一のまとめた研究書となっている。この研究書は、1930年代のヴィノグラードフ、ヴィノクールのロシア文章語史を始めとして、1990年代のコヴァレフスカヤ、2005年のカムチャトウノフ等のロシア文章語史でも引用され⁵、今でも価値を持つものと見なされている⁶。

幸いなことに1984年に出版された文学記念碑版『手紙』⁷で、テキスト・バリエントについて詳細な注が付けられ、またマルченコによる解説で⁸、このテキストの成立過程が明らかにされたので、本研究では、シポフスキイ以降ほとんど手が着けられていなかった、『手紙』のテキスト改訂過程を、パソコンを使って分析することを試みた。

以前筆者は『手紙』における「強調の大文字」を分析した⁹。一見混乱したように見える『手紙』中の大文字使用は、パソコンを使って個別の現象を全体の中で観察することにより、カラムジンがそこに明確な規範を定め、自身

³ ibid. p. 349-352

⁴ Сиповский (1899)

⁵ Виноградов (1938 [1982]), стр. 176, Винокур (1943 [1959]), стр. 94, Ковалевская (1992), стр. 170, Камчатнов (2005), стр. 423

⁶ Марченко (1984), стр. 607

⁷ Карамзин (1984), Серии <Литературные памятники>

⁸ Марченко (1984), стр. 607-612

⁹ 浦井 (1990)

それに非常に忠実に従っていることを明らかにした。この『手紙』におけるテキストの改訂過程も、個別の現象を全体の中で考察することにより、彼の言語規範とその変化が明らかにできるものと考えている。

§ 2 テキストの成立と版の数

前述のシポフスキイの研究では、テキストは以下の5種類が区別され比較されている¹⁰。またカラムジンの場合、彼の手稿、メモ等は生前に破棄されたと考えられ¹¹、研究対象は刊行されたテキストに限定される。

- ・モスクワ・ジャーナル第1版 (1791~92) とアグラーヤ (1794~95)
- ・単行本 (1797~1801)
- ・カラムジン著作集 (1803)
- ・カラムジン著作集 (1814)
- ・カラムジン著作集 (1820)

なおシポフスキイは、モスクワ・ジャーナル第二版を、その発行年が正確に決定できないとの理由で、考察の対象から外している¹²。

これに対して、マルチェンコによるテキスト成立史の研究では、以下に示す全部で8種類のテキストを区別している。なお今後『手紙』の個々のテキストを指示するときは、文学記念碑版で示された手紙番号を使うこととする¹³。

- ・モスクワ・ジャーナル第1版 (первое издание «Московского журнала», 1791~92, 全8巻, 記念碑版のバリエント表示では, МЖ 1 だが, 本論では処理の都合上ラテン文字で M 1 と略す) : 手紙 <1>~<95> まで (作

¹⁰ Сиповский (1899), стр. 158~9

¹¹ Сиповский (1899), стр. 158, Марченко (1984), стр. 608

¹² Сиповский (1899), стр. 159

¹³ 手紙番号は < > で括って示す。

品全体で手紙の数は 159)¹⁴。

- ・アグラーヤ («Аглая», 1794~95, А 1, А 2) : カラムジンの諸作品を集めたアリマナフで, その中で『手紙』の <95> 以降の一部が発表された。

第 1 卷 : 1794 年, 手紙 <129>~<134>

第 2 卷 : 1795 年, 手紙 <97> の部分, <100>, <101>

- ・**単行本第 1 版** (первый вариант отдельного издания «Писем русского путешественника», 1797~1801, 記念碑版で ПРП 1, 本論では Р 1) : ここで初めて全編が発表される。

1 – 4 卷 : 1797 年

5 – 6 卷 : 1801 年

- ・**単行本第 2 版** (второй вариант отдельного издания «Писем русского путешественника», 1797~1801, ПРП 2, Р 2) :

発行年の表示がまったく同じで, シポフスキイは第 1 版と 2 版を区別していない。しかし両者は, 活字やページ付けの位置などが明らかに違い, またテキスト自体にもかなりの違いがあるという。これについてソピコフは, カラムジンが検閲でのトラブルを避けるため, 増刷を装い, あえて改訂版であることを示さずに印刷したと考えている¹⁵。また彼はこの第 2 版の 1 – 4 卷の発行年を, 1801 年と推定している。2 版の 5, 6 卷の発行も 1801 年だが, 第 6 卷は, 単行本第 1 版, 第 2 版を合せて一回しか出版されていない。

- ・**モスクワ・ジャーナル第 2 版** (второе издание «Московского журнала», 1801~1803, МЖ 2, М 2) : 第 1 版の復刻で「初版に対して変更なしで印刷された」¹⁶ とされていて, 外見は変化がないが, 実際にはテキストにはかなりの変更が加えられている。ソピコフによると 1 ~ 8 卷の発行年は

¹⁴ ただし 1791 年の第 1 卷で独立していた самоубийца の物語は, 後に <85> に移る。

¹⁵ Марченко(1984) は 610 ページの脚注 11 で, Сопиков В. С. Опыт российской библиографии. ч. 3, СПб., 1904, стр. 121, №. 5067. を引用している。

¹⁶ Марченко (1984) стр. 611

以下のようなである。

3, 4巻 : 1801年

1, 5, 6巻 : 1802年

2, 7, 8巻 : 1803年

- ・カラムジン著作集第1版 (Сочинения Н. М. Карамзина, 1803, С 1, С 1) :

カラムジンの他の作品と一緒にまとめられたもの。2～5巻が『手紙』。

- ・カラムジン著作集第2版 (Сочинения Н. М. Карамзина, 1814, С 2, С 2) :

ほぼ最終的な形。2～5巻が『手紙』で、次の第3版と比べてもほとんど違いは無い。

- ・カラムジン著作集第3版 (Сочинения Н. М. Карамзина, 1820, С 3, С 3) :

カラムジン生前最後の版で、文学記念碑版の底本になったもの。

このように『手紙』の成立は、相当に複雑な様相を呈している。本研究は、各々の版の使用語彙を集計し、それらを比較して各語彙の版による増減の検討を主要な目的としているため、モスクワ・ジャーナルで発表され、全ての版に共通する部分 (<1> から <95>) を分析対象と限定した¹⁷。また藤沼氏も以下の理由から、この部分を『手紙』のもっとも重要な部分と位置づけている¹⁸。

①：内容的に見て『手紙』の本質的な特徴は、雑誌版 (パリ到着まで¹⁹) の部分で、すべて出つくしている。

②：『手紙』のもっとも重要な文学的作用は時間的に見て、カラムジン自身

¹⁷ アグラーヤをM1の続きとしてまとめることもできるが、その場合M2との整合性が取れなくなるために、アグラーヤは除いた。また手紙90のバリアント21は、M1, M2だけが非常に長いため、語彙統計ではこのバリアントを除外して集計している。

¹⁸ 藤沼 (1997), p. 283

¹⁹ 手紙 <95>

の文学活動にとっても、ロシアの文学状況にとっても、雑誌第1版(1791~92年)の時期に発揮されてしまっている。

上記の版の内、モスクワ・ジャーナル第2版(M2)とカラムジン著作集第3版(S3)はマイクロフィッシュで入手できたので、バリアントの指示が曖昧で、確認が必要な場合には隨時これらを参照した。

§3 データベースの作成

文学記念碑版のテキストとバリアントの記述の例を以下に示す。

例1 テキスト(手紙1)：

〈1〉

Расстался я с вами, милые, расстался ! Сердце мое ¹привязано к вам всеми нежнейшими своими чувствами,¹ а я беспрестанно от вас удаляюсь и буду удаляться !²

О сердце, сердце ! кто знает, чего ты хочешь ? — — Сколько лет путешествие было приятнейшою мечтою моего воображения ? ...

例2 バリアント(手紙1)：

〈1〉

¹⁻¹ МЖ1-2 столько к вам привязано, ПРП1 привязано к вам всеми нежнейшими чувствами своими, ПРП2 привязано к вам всеми нежными своими чувствами,² МЖ1 Что я по сие время вытерпел, милые, и еще терпеть буду!³⁻³ ...

テキストについては、lemmatized concordanceを作成する際に形態解析を行って、例3のようなデータベースをすでに作成している²⁰。これは例1の

²⁰ データベースの作成とその構造については、浦井(1996)でまとめている。なおこの時

テキストを一語一行に並び換える、各語に文法的情報と辞書的見出し語を付加したものである。

下記データベースでの項目BのAは『手紙』の第一部であることを、LETの001は手紙番号<1>、REFの005_04_01はрассталсяの語形が、文学記念碑版5ページ4行目の前から1番目であること、P=1は段落始め、E=1は文末、WFはテキスト中に現れる語形、HIは品詞情報²¹、LEXはWFの辞書的見出し語、NOは同形異義識別番号、LEX2はLEXとNOを組み合わせたものであることを示している。

このデータベースに、今回の分析のため新たに追加されたのはVの項目で、バリエントが無ければz、あればその番号が記録されている。

例3 テキスト・データベース

| B | LET | REF | V | P | E | WF | HI | LEX | NO | LEX2 |
|---|-----|-----------|---|---|---|-----------|-----|------------|----|-------------|
| A | 001 | 005_04_01 | z | 1 | 0 | расстался | v | расстаться | 1 | расстаться1 |
| A | 001 | 005_04_02 | z | 0 | 0 | я | pr | я | 1 | я1 |
| A | 001 | 005_04_03 | z | 0 | 0 | с | pre | с | 1 | с1 |
| A | 001 | 005_04_04 | z | 0 | 0 | вами | pr | вы | 1 | вы1 |
| A | 001 | 005_04_05 | z | 0 | 0 | , | , | , | 1 | , |
| A | 001 | 005_04_06 | z | 0 | 0 | милые | n | милый | 2 | милый2 |
| A | 001 | 005_04_07 | z | 0 | 0 | , | , | , | 1 | , |
| A | 001 | 005_04_08 | z | 0 | 0 | расстался | v | расстаться | 1 | расстаться1 |
| A | 001 | 005_04_09 | z | 0 | 1 | ! | ! | ! | 1 | ! |

期のパソコンは多言語対応になっていなかったため、このデータベースの基礎になっているキリル文字のテキストは、小文字優先のシステムを使い、通常の文頭は小文字で始まっている。またラテン文字には大文字しか使えず、アクサン、ウムラウトは省略している。一方今回処理したバリエントのデータは、キリル文字、ラテン文字共に、テキスト通りの大小文字を使っていて、両者で整合性が取れていない。しかしこれを修正するためには膨大な労力がかかるので、この点についてはお許し願いたい。

²¹ HIの個々の値は、Urai (2000) を参照されたい。

北大文学研究科紀要

| | | | | | |
|------------------------|------------|-----|-----------|---|------------|
| A 001 005_04_10 z 0 0 | сердце | n | сердце | 1 | сердце1 |
| A 001 005_04_11 z 0 0 | мое | pr | мой | 1 | мой1 |
| A 001 005_04_12 01 0 0 | привязано | v | привязать | 1 | привязать1 |
| A 001 005_04_13 01 0 0 | к | pre | к | 1 | к1 |
| A 001 005_04_14 01 0 0 | вам | pr | вы | 1 | вы1 |
| A 001 005_05_01 01 0 0 | всеми | pr | весь | 1 | весь1 |
| A 001 005_05_02 01 0 0 | нежнейшими | a | нежнейший | 1 | нежнейший1 |
| A 001 005_05_03 01 0 0 | своими | pr | свой | 1 | свой1 |
| A 001 005_05_04 01 0 0 | чувствами | n | чувство | 1 | чувство1 |
| A 001 005_05_05 01 0 0 | , | , | , | 1 | , 1 |
| A 001 005_05_06 z 0 0 | а | uni | а | 1 | а1 |
| A 001 005_05_07 z 0 0 | я | pr | я | 1 | я1 |

一方バリアント部は、この部分を新たに OCR で電子データ化し²²、例 4 のように一語一行の形に加工した上で形態解析を行い、各語形に見出し語と品詞情報を付けたバリアント・データベースを作成した。なお V はバリアント番号、H は各版を示し、例えば M 12 は、モスクワ・ジャーナル第 1、2 版で共通であることを示す。LET, WF, LEX, NO, LEX2 はテキスト・データベースの場合と同じである。

例 4 バリアント・データベース

| LET | V | H | WF | HI | LEX | NO | LEX2 |
|-----|----|------|-----------|-----|-----------|----|------------|
| 001 | 01 | M 12 | столько | ad | столько | 2 | столько2 |
| 001 | 01 | M 12 | к | pre | к | 1 | к1 |
| 001 | 01 | M 12 | вам | pr | вы | 1 | вы1 |
| 001 | 01 | M 12 | привязано | v | привязать | 1 | привязать1 |

²² Карамзин (1984), стр. 394-441

カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリエントの分析

| | | | | | | | | |
|-----|----|------|------------|-----|-----------|---|------------|---|
| 001 | 01 | M 12 | , | , | , | 1 | , | 1 |
| 001 | 01 | P 1 | привязано | v | привязать | 1 | привязать1 | |
| 001 | 01 | P 1 | к | pre | к | 1 | к1 | |
| 001 | 01 | P 1 | вам | pr | вы | 1 | вы1 | |
| 001 | 01 | P 1 | всеми | pr | весь | 1 | весь1 | |
| 001 | 01 | P 1 | нежнейшими | a | нежнейший | 1 | нежнейший1 | |
| 001 | 01 | P 1 | чувствами | n | чувство | 1 | чувство1 | |
| 001 | 01 | P 1 | своими | pr | свой | 1 | свой1 | |
| 001 | 01 | P 1 | , | , | , | 1 | , | 1 |
| 001 | 01 | P 2 | привязано | v | привязать | 1 | привязать1 | |
| 001 | 01 | P 2 | к | pre | к | 1 | к1 | |
| 001 | 01 | P 2 | вам | pr | вы | 1 | вы1 | |
| 001 | 01 | P 2 | всеми | pr | весь | 1 | весь1 | |
| 001 | 01 | P 2 | нежными | a | нежный | 1 | нежный1 | |
| 001 | 01 | P 2 | своими | pr | свой | 1 | свой1 | |
| 001 | 01 | P 2 | чувствами | n | чувство | 1 | чувство1 | |
| 001 | 01 | P 2 | , | , | , | 1 | , | 1 |

バリエントのデータ化で注意しなければならないのは、文学記念碑版のバリエント表示は、人間レベルの記述であり、機械的に対応すると、かなりの誤りを侵す危険があることである。バリエント表示には二種類あり、一つは上付きの数字で該当する語句を囲むもの (³～～～³)、もう一つは該当する語の後ろに付くもの (～³) である。

前者はかなり正確に対応しているが、後者は一語に対するもの、前置詞句等の二語以上に対応するもの (例えば〈7〉の 16 で、原文は под брюхом¹⁶ となっているが、対応するバリエントは на боку のため、厳密には¹⁶ под брюхом¹⁶ となろう)、またその表示の後に一文が追加されるものなど様々な場合があり、前述のマイクロフィッシュの助けを借りないと、判定できない

ものも多かった²³。また一々正誤表は示さないが、句読点の脱落はかなりあり、それらは適宜補っている。

記念碑版のバリアント表示で追加されたもの（例えばバリアント 7 の次に 7 a を後で追加した場合など）は、データベースでバリアントの数字を二桁に設定したため、二桁のものはそのまま対応できたが（7 a），表示が三桁のもの（例えば〈8〉の 43 a）は、その手紙のバリアントの最後の番号に続く番号を割り当てた（上記では 82）²⁴。

この二つのデータベースをプログラムで組み合わせることで、5 節で示すような様々な形式のデータを出力できるが、その前に予備調査を行おう。

§ 4 各版の連續性と不連續性

バリアントのデータを、例 4 で示したデータベースに変形する前に、その見出しを使って、各版の共通性を検討することが出来る。例えば下記の手紙 5 のバリアントのデータ（例 5）を、一件一行の形に書き換え、バリアント番号を無視して同じ見出いでまとめると、例 6 になる。

例 5 手紙 5 のバリアント：

1 МЖ1-2, ПРП1-2 Полонга ²⁻² МЖ1-2, ПРП1 есть, и не за большия деньги. Давали нам суп, жареное ПРП2 есть, и не за большия деньги. Нам давали суп, жаркое ³ МЖ1, ПРП1-2, С1 платили мы МЖ2 брали ⁴ МЖ1, ПРП1-2, С1 фурманов, МЖ2 Фурманов, ⁵⁻⁵ МЖ1-2, ПРП1-2, С1-2

²³ 単行本（P 1, P 2）のバリアントでは、オリジナルを参照できないため、判断に苦しむところもあった（例えば〈16〉の 9 の長文のバリアント等で）。

²⁴ バリアントには абзац（節）の区切りを示す | | の記号も含まれているが、以前コンコンダンス作成の際に作ったテキスト・データベースには、この指示を入れなかつたため、本論でもこの記号は反映させなかつた。

Курляндские дворяне⁶ МЖ1-2, ПРП1-2, С1 не встречались нам · · · · ·

例 6

МЖ1, ПРП1-2, С1 платили мы

МЖ1, ПРП1-2, С1 фурманов,

МЖ1-2, ПРП1 есть, и не за большия деньги. Давали нам суп, жареное

МЖ1-2, ПРП1-2 Полонга

МЖ1-2, ПРП1-2, С1 не встречались нам

МЖ1-2, ПРП1-2, С1-2 Курляндские дворяне

МЖ2 брали

МЖ2 Фурманов,

ПРП2 есть, и не за большия деньги. Нам давали суп, жаркое

ここで、МЖ1, ПРП1-2, С1の組は、モスクワ・ジャーナル1版と単行本1, 2版と著作集1版で共通する形であったが、著作集2版から形が変わったことを示している。ただし厳密には各バリエントの長さはまちまちで、下記の手紙4のバリエント27のように、細かい部分で版毎に異なる表示が含まれる場合もあるが、大体の傾向をつかむためには、上記の作業で十分カバーできると思われる。

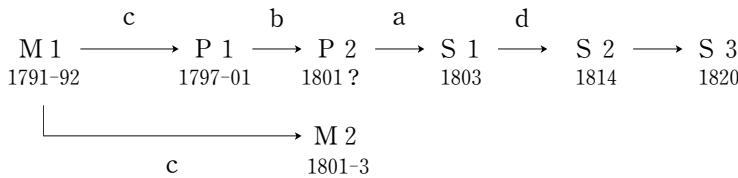
²⁷⁻²⁷ МЖ1-2, ПРП1-2 утверждать своего мнения, а я опровергать его основательнее. Приметив из слов их, что они почитали (ПРП2 считали) меня Французом, почел (МЖ2 счел) я за должное открыть им заблуждение их; (ПРП2 вывести их из заблуждения;) но они...

手紙1から95までのバリエントの見出しの組を集計し、モスクワ・ジャーナルの2版は1版の復刻と考えて、これらをまとめると以下のようになった。

| | |
|-----------------------|-----|
| M1 (M 12), P 1 | 271 |
| M1 | 210 |
| M1 (M 12), P 12, S 1 | 144 |
| M1 (M 12), P 12, S 12 | 105 |

ここから読めるのは、一番多く連続していたのは、M 1 から P 2 までであり、S 1 の刊行に際して一番多く書き換えがあったことがわかる(以下の図式の a)。同様に考えて、次に多くの書き換えがあったのは、単行本 1 版 (P 1) と 2 版 (P 2) の間 (b)，三番目はモスクワ・ジャーナル 1 版 (M 1) と、2 版 (M 2) または単行本 1 版 (P 1) の間 (c)，四番目には著作集 1 版と 2 版の間 (d) となる²⁵。

図式



以下では、これらの不連続面で一体どの様な現象が生じたのかを検討するが、その際強力なデータとなるのは、版毎の語彙統計である。

§ 5 データベースの運用

第3節で示したテキスト・データベース（例3）とバリエント・データベース（例4）をプログラムで組み合わせることで、以下のような様々な形のデータを作り出すことが出来る。

²⁵ S 2 と S 3 の間にも相違はあるが、実際の作業ではほとんど重要な差はなかったので、S 2 → S 3 は考慮しなかった。

- ①：版毎のテキスト，例えばモスクワ・ジャーナル第1版を復元する。この版はマイクロフィッシュでも入手できず，オリジナルを見るしかなり²⁶。
- ②：テキスト中の各箇所でのバリエントの履歴を表示する。
- ③：語形変化の激しい語には，見出し語で検索できるようにする。
- ④：版毎の語彙統計を取る。

以下に①から④の例を示す。

例① M1 のテキスト

расстался я с вами, милые, расстался ! сердце мое 01_{столько к вам привязано,} а я беспрестанно от вас удаляюсь и буду удаляться ! 02_{Что я по сие время вытерпел, милые, и еще терпеть буду !}

例② バリエントの履歴

расстался я с вами, милые , расстался ! сердце мое 01_{привязано к вам всеми нежнейшими своими чувствами,}

M12; столько к вам привязано,

P1; привязано к вам всеми нежнейшими чувствами своими,

P2; привязано к вам всеми нежными своими чувствами,

а я беспрестанно от вас удаляюсь и буду удаляться ! 02_{ }

M1; Что я по сие время вытерпел, милые, и еще терпеть буду !

例③ 例えば代名詞等に対して，見出し語を付加した電子テキストの生成。多少見にくいか，_вы1 で検索すると， вас， вам， вами 等のすべての語形が一度に取り出せる。

расстался я_я1 с вами_вы1 , милые, расстался ! сердце мое_мой1 01_

²⁶ ただこのテキストは，専門家がロシアに行っても見ることが出来なかったという話を聞いている。

{привязано к вам_вы1 всеми_весь1 нежнейшими своими_свой1
чувствами,}

M12; столько к вам_вы1 привязано,

P1; привязано к вам_вы1 всеми_весь1 нежнейшими чувствами
своими_свой1,

P2; привязано к вам_вы1 всеми_весь1 нежными своими_свой1
чувствами,

а я_я1 беспрестанно от вас_вы1 удаляюсь и буду удаляться ! 02_{ }

M1; Что я_я1 по сие_сей1 время вытерпел, милые, и еще терпеть
буду !

例④ 版毎の語彙統計を取るためには、データベースの変化語形の項目
(WF) ではなく、見出し語 (LEX2) でテキストを出力する (M1の場合)。

расстаться1 я1 с1 вы1,1 милый2,1 расстаться1 !1 сердце1 мой1 01_
{столько2 к1 вы1 привязать1,1} а1 я1 беспрестанный1 от1 вы1
удаляться1 и1 быть1 удаляться1 !1 02_{что я1 по1 сей1 время1
вытерпеть1,1 милый2,1 и1 еще1 терпеть1 быть1 !1}²⁷

例④の出力で全てのスペースを改行で置き換えると、一語一行のデータ
なり、これをアルファベット順に並び換え、同じ語彙を集計すると、語彙統
計が得られる。この作業を M1 から S3 までの各版で計 7 回行い、その結果
を一覧表にまとめると、例⑤となるが、今後これを「版別語彙集計表」と呼
ぶことにする。

²⁷ 煩雑ではあるが、句読点にも全て同型異議識別番号を付けてある。

例⑤ 版別語彙集計表

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 ²⁸ |
|------------------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| uni | a1 | 333 | 328 | 328 | 326 | 312 | 313 | 313 |
| n | аббат1 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 |
| n | абрикос1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| n | абшид1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| n | август1 | 15 | 15 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 |
| uni | авось1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| a | австрийский1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 |
| n | автор1 | 34 | 34 | 35 | 36 | 37 | 37 | 37 |
| a | авторский1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| n | авторство1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| n | ад1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| n | адвокат1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 総計 ²⁹ | | 82012 | 81044 | 80974 | 80580 | 78867 | 78772 | 78604 |

本研究ではこれらのデータを使って、第4節で明らかにした、バリエントの不連続性を具体的に検討するが、それとは別に、上記例②のバリエントの履歴を示したテキストと³⁰、例⑤の版別語彙集計表を、資料集として刊行したいと思っている。このデータはシポフスキイの研究後、一世紀を経て刊行されるもので、この分野の研究で次のステップを示すものとなろう。

²⁸ 実際のリストでは、a 1 の前に大文字で始まる固有名詞が先行するが、これらの数値はほとんど変動しないので、例では除いた。

²⁹ 句読点、ラテン文字を除いた、キリル文字で綴られた固有名詞を含む語の各版での総計。M 1 から S 3 で約 3400 語が減少していることがわかる。また集計表での見出し語の総数は 8061 語。

³⁰ バリエントで абзац(| |)の記号だけの所は、番号を跳ばしている。また手紙 2 のバリエント 3 のように、〈сноски нет〉のようなコメントでは、バリエント有りの表示{～}だけが示されることもある。

§ 6 モスクワ・ジャーナル (M 1, 2) から単行本 1 版 (P 1) での変化

シポフスキーの研究では様々なバリエントについて、一語を別の語で置換したもの、一つの言い回し (оборот) を別の言い回しで置換したもの、一文を別の文で置換したもの、一語の脱落、表現の脱落、一文またはいくつかの文の脱落、意味の変化、形式的な変化 (関係代名詞構文→形動詞構文など)、付加、転位 (形容詞と名詞の位置の入れ換えなど) の場合に分け、詳細に分析している³¹。しかしこれらの中には、『手紙』の表現や内容や思想の変化に関わるものもあり、単純に比較できないものも多い。そのため本研究では、版別語彙集計表を使い、借用語、古語、口語、機能語などの特徴的な語に焦点を当て、形式的な側面からの分析を試みる。

版別語彙集計表を使うと、個別の現象を全体の中で捉えることができる。例えば通常の文章語史ではシポフスキーの研究をもとに、вояж が путешествие に、рекомендовать が представлять に置き換えられたことが、しばしば引用されている³²。しかし版別語彙集計表でこれらの語を見てみると、確かにвояж は、P 1 以降全て書き換えられるのに対して、рекомендовать では、置換されたのは 1 例だけで、他の 2 例は生前最後の S 3 まで保たれていたことがわかり、それほど特記される現象なのか疑問である。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|----|-----------------|----|----|----|----|----|----|----|
| n | вояж 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| v | рекомендовать 1 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |

³¹ Сиповский (1899), стр. 170–207, 及び注 5 参照。

³² ibid. стр. 174–5, および注 5 の諸研究書で。

この節ではモスクワ・ジャーナル1, 2版から単行本1版に移った時のテキストの変化を検討するが(4節の図式のc), その際指標として, 出現総数に対する減少数の割合を, 個々の語彙について計算した。

$$\text{出現総数に対する減少数の割合} = \frac{(M1 \text{ の頻度} - P1 \text{ の頻度})}{M1 \text{ の頻度}} \times 100$$

この値が100またはそれに近い借用語, 古語, 口語は, M1からP1に移る際に, 書き換えられ, または脱落して消えたバリアントである可能性が高い。しかし長文のバリアントがM1からP1で全面的に書き換えられた場合にも, この値が100になることがあるので, 注意が必要である。本論では, シポフスキーが指摘し, 問題がないと思われる例はここに入れた³³。なお書き換えの項で, 0(ゼロ)は対応する語が無い場合を示し, **が付加されたものについては, 下記に対応例を示している。

同様の作業をM2に対しても行い, これらをまとめてM12からP1に移る際に特徴的なものを以下に示す。

借用語

| HI LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | 書き換え |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|------------------------|
| n аффект1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | жар |
| n диалог1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | разговор |
| n момент1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | время ³⁴ ** |
| n дракон1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | змий |
| n партия1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | толпа ** |

³³ Сиповскийは национальный → народный, мина → выражение, энтузиазм → жарなどの例もここに含めているが, これらは一部がM1からP1で書き換えられるが, 他の多くは, S3までそのまま残されている。

³⁴ Карамзин(1984), стр. 424の脚注でカラムジン自身が, МОМЕНТはвремяで置き換え可能だが, この意味ではロシア語のвремяより МОМЕНТの方が, より知られた語であると述べている。

北大文学研究科紀要

| | | | | | | | | | |
|---|-----------------|---|---|---|---|---|---|---|-------------|
| n | визитация1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | осмотр |
| n | вояж1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | путешествие |
| v | декламировать1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | вооружиться |
| v | интересоваться1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ** |
| v | публиковать1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | объявить |
| n | пункт1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | степень |
| n | ребро1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | грудь |
| n | тулья1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| n | эрудиция1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ** |
| n | натуральность1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | *** |
| a | натуральный1 | 5 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | ** |
| a | ненатуральный1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

古語と口語

| | | | | | | | | | |
|----|-----------------|----|---|---|---|---|---|---|------------|
| v | возвеселять1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | веселить |
| a | единовременный1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | *** |
| ad | паки1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | вновь |
| v | сотворить1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | образовать |
| v | завопить1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | закричать |
| n | скарб1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | пожитки |
| n | собаченька1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| n | окошко1 | 12 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | окно ** |
| v | дудеть1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | играть |
| a | тутощний1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ** |

その他

| | | | | | | | | | |
|----|------------|----|----|---|---|---|---|---|--------|
| n | магистрат1 | 4 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ратуша |
| pr | оный1 | 28 | 10 | 9 | 5 | 4 | 4 | 4 | ** |

pr како́й-то1 12 12 16 17 18 18 18 18 **

モーメント、ドラゴン、 единовременно は、ラオコーンの群像について述べた手紙 45 のバリエント 3 で、対応するフランス語が示された M 1 のテキストだけで現れている（イタリックは原文のまま）。

Он (=Виргилий) описывает *наследственное* или *разновременное* действие (*action successive*), а художник представил — — и по законам необходимости должен был представить — — купное или *единовременное* (*action simultanée*). В стихах Виргилиевых змеи растерзали прежде двух сынов Лаокооновых, а по том уже его самого, бросившегося на помощь к своим детям; но Фидиас соединяет сии два *момента*, и драконы схватывают у него вместе и отца и детей.

все наряжаются в лучшее {свое платье, и толпа за толпою} встречается на улицах. ($<8>$ —77)³⁵

М1; свое платье. *Партия за партией*

{потому что теперь вы вселили в меня желание узнать вас
короче — —} (34-44)

М1; продолжал он — потому что теперь я начинаю вами интересоваться —

М2; продолжал он — — по тому что я начинаю вами интересоваться — —

П12; продолжал он — — по тому что теперь вы вселили в меня
желание узнать вас короче —

³⁵ (<8>—77) は、手紙番号 8 のバリエント 77 を示す。なお以下の例でのイタリックは、特にことわらない限り、見やすさのため浦井が換えたものである。

как Немцы прилежали только к сухой {учености} (⟨34⟩—56)
 M12; учености или *эрудиции*³⁶

— — Г* Флек играет роль мужа {с таким чувством,} что каждое слово его доходит до сердца. (⟨16⟩—11)

M1; с такою *натуральностью*, с таким чувством

натуральный, ненатуральный は, 実際には副詞として使われている。

натурально, ненатуральнее → ゼロ : 3回

натуральнее → 他の比較級 : 3回

Унцельман играл ее как—то очень бездушно. Ему гораздо {свойственное} представлять в Ненависти к людям старого Генерала ...

M1; *натуральнее* (⟨18⟩—27)

M2; естественнее

однакожь девку молошницу играет она (=Актриса) {лучше,} нежели Королеву. (⟨19⟩—14)

M1; *натуральнее*,

M2; гораздо лучше,

окошко は P 1までに全て окно に書き換えられた。

окошко → окно, подле окошка → подле окна, под окошком → под окном 等

за столом у Господина Блума сидело человек тридцать: Офицеров, {купцов} и важных Саксонских Баронов, (⟨14⟩—75)

M12; *купцов тутоминых* и иностранных,

³⁶ Эрудиция1 (erudition: 学識), или以下の言い換えが消える

magistrat と онъи́х は M 12 で完全に消えたものではないが, M 1 から P 1(M 2) に移る際に, 大幅に書き換えられている。特に онъи́х は 3 分の 2 が書き換えられ, 劇的に減少している³⁷。なお онъи́х は例の数が多いため, 簡略した形で示す。また最後の例では, 3 段階に書き換えられている。

онъи́х, оное 等とその斜格 → ゼロ

оного → его, оной → ея, оных → их

за оное → за него, из оных → из них 等

Беккер также 04_{радуется} — — (⟨76⟩-04)

M1; радуется оному — —

покойный Король заплатил {за него} 700 талеров. (⟨14⟩-71)

M1; за оное

образ милой Саксонки остался в моих мыслях, к украшению картинной галлереи {моего воображения. — —} (⟨22⟩-31)

M1; оного. — —

M2; его. — —

一方 M 12 から P 1 で増加する数少ない例の какой-то は, 不定冠詞的な機能を果たしているが(один → какой-то, ゼロ → какой-то), まとめた結果は得られなかった。

{какая-то} старушка подралась на улице с *каким-то* стариком;}

M12; Старая женщина подралась на улице с стариком; (⟨90⟩-30)

³⁷ レヴィンによると, カラムジンは 1780 年代の同時代人より, онъи́х の使用は少なく, また後にこの代名詞は排除されていった。その排除は徹底したものではなかったが, 十分目立つ傾向であったと述べられている。レヴィン (1964), str. 223

M 1 から, M 2 または P 1 への書き換えの多くは, 人の注意を引きやすい顕著なものだが, 単発的, 孤立的で体系的でないものが多いと言える (аффект, диалог, вояж 等)。一方, 『手紙』に含まれる非常に多くの借用語は, 版別語彙統計表から判断すると, 変更されることなくそのまま残されている。

これに関連して, 「換言すれば」の意義を示す или によって, 対応するロシア語が示された借用語では, 書き換えられずにそのまま残ることが多い³⁸。例えば:

по феноменам или явлениям (⟨26⟩)

в дилижансе или в почтовой карете (⟨43⟩)

особливые ученыя общества или Клубы (⟨30⟩)

一方古語, 口語は M 1 の段階から非常に少なく, しかもすぐに書き換えられたことがわかる (взвеселять, паки, окошко, тутощий 等)。またシポフスキーはこれらの варваризм と архаизм の書き換えと共に, ロシア語の現象として почитать → считать, 副動詞現在の過去への書き換え (вообразя → вообразивъ) 等も指摘しているが³⁹, 本論のテーマと外れるので, ここでは扱わない。

§ 7 高頻度語の変遷

版別語彙統計表が一番効果的に働くのは, 前節のような単発的, 孤立的な場合ではなく, 高頻度の語が全体の中でどう変遷したかを明らかにするような場合である。これを探るため, M 1 と S 3 の頻度の差が, 増加で 5 を越え, 減少で 10 を越えるものを抜き出し⁴⁰, 各々の語彙について, 出現総数に対する

³⁸ 詳しくは機能語を分析する 9 節で検討する

³⁹ Сиповский (1899), стр. 217

⁴⁰ 全体としてデータ量が減少しているため, 増加するものは, 条件を緩めても例は少なかつた。

る減少数の割合（以下減少数の割合と省略する）を計算し、百分率の高い順に並べ換えた。なお本論では固有名詞と動詞は、このリストから外している⁴¹。

$$\text{減少数の割合} = \frac{(M1 \text{ の頻度} - S3 \text{ の頻度})}{M1 \text{ の頻度}} \times 100(\%)$$

増加

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | M1-S3 | 減少数(%) |
|----|----------------|----|----|----|----|----|----|----|-------|--------|
| a | правственны́й1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 10 | 11 | -10 | -1000 |
| a | единственны́й1 | 5 | 5 | 6 | 10 | 13 | 13 | 13 | -8 | -160 |
| a | любопытны́й1 | 6 | 6 | 6 | 6 | 10 | 14 | 14 | -8 | -133 |
| n | окно1 | 14 | 18 | 26 | 26 | 25 | 25 | 25 | -11 | -79 |
| pr | какой-то1 | 12 | 12 | 16 | 17 | 18 | 18 | 18 | -6 | -50 |
| pr | этот1 | 63 | 68 | 66 | 93 | 88 | 88 | 87 | -24 | -38 |

減少

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | S3-M1 | % |
|-----|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|
| n | окошко1 | 12 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 100 |
| a | моральны́й1 | 12 | 12 | 12 | 12 | 13 | 0 | 0 | 12 | 100 |
| a | интересны́й1 | 14 | 13 | 13 | 11 | 6 | 1 | 1 | 13 | 93 |
| pr | оны́й1 | 28 | 10 | 9 | 5 | 4 | 4 | 4 | 24 | 86 |
| ad | поутру1 | 41 | 40 | 39 | 39 | 29 | 29 | 29 | 12 | 29 |
| ad | весьма1 | 90 | 83 | 70 | 64 | 66 | 66 | 65 | 25 | 28 |
| pre | по1 | 495 | 467 | 477 | 450 | 400 | 395 | 393 | 102 | 21 |
| pr | сей1 | 587 | 559 | 566 | 497 | 486 | 485 | 483 | 104 | 18 |
| ad | почти1 | 74 | 71 | 71 | 69 | 65 | 63 | 63 | 11 | 15 |

⁴¹ 本論は、借用語、古語、口語、機能語などの特徴的な語に焦点を当てたものなので、ロシア語本来の動詞は扱わなかった。

北大文学研究科紀要

| | | | | | | | | | | |
|------|----------|------|------|------|------|------|------|------|-----|----|
| pre | при1 | 81 | 75 | 76 | 73 | 69 | 69 | 69 | 12 | 15 |
| wf | ее | 92 | 89 | 91 | 90 | 79 | 79 | 79 | 13 | 14 |
| pre | перед1 | 87 | 83 | 83 | 78 | 75 | 75 | 75 | 12 | 14 |
| pr | тот1 | 486 | 466 | 470 | 453 | 424 | 421 | 420 | 66 | 14 |
| pre | под1 | 122 | 119 | 116 | 108 | 107 | 106 | 106 | 16 | 13 |
| ad | очень1 | 206 | 203 | 204 | 197 | 192 | 185 | 184 | 22 | 11 |
| uni | уже1 | 130 | 127 | 124 | 123 | 118 | 117 | 117 | 13 | 10 |
| pr | свой1 | 857 | 843 | 838 | 831 | 780 | 777 | 773 | 84 | 10 |
| pr | она1 | 301 | 296 | 296 | 295 | 272 | 271 | 272 | 29 | 10 |
| part | бы1 | 241 | 236 | 236 | 231 | 220 | 219 | 218 | 23 | 10 |
| con2 | чтобы1 | 189 | 188 | 183 | 180 | 171 | 171 | 171 | 18 | 10 |
| pr | себя1 | 236 | 231 | 230 | 226 | 216 | 216 | 216 | 20 | 8 |
| uni | же1 | 150 | 147 | 147 | 146 | 139 | 138 | 138 | 12 | 8 |
| uni | так1 | 315 | 306 | 305 | 303 | 293 | 292 | 290 | 25 | 8 |
| num | два1 | 164 | 159 | 158 | 158 | 152 | 152 | 152 | 12 | 7 |
| uni | только1 | 169 | 165 | 164 | 159 | 159 | 159 | 157 | 12 | 7 |
| pre | у1 | 296 | 292 | 284 | 286 | 277 | 277 | 276 | 20 | 7 |
| pre | до1 | 181 | 179 | 177 | 180 | 169 | 169 | 169 | 12 | 7 |
| pr | он1 | 1173 | 1152 | 1140 | 1130 | 1101 | 1103 | 1102 | 71 | 6 |
| uni | а1 | 333 | 328 | 328 | 326 | 312 | 313 | 313 | 20 | 6 |
| pr | я1 | 2397 | 2355 | 2365 | 2344 | 2261 | 2256 | 2258 | 139 | 6 |
| con2 | или1 | 245 | 240 | 237 | 233 | 232 | 232 | 231 | 14 | 6 |
| wf | его | 696 | 690 | 692 | 690 | 674 | 670 | 661 | 35 | 5 |
| n | человек1 | 300 | 297 | 297 | 297 | 286 | 287 | 285 | 15 | 5 |
| pr | который1 | 947 | 931 | 930 | 926 | 906 | 905 | 901 | 46 | 5 |
| wf | что | 935 | 924 | 914 | 905 | 893 | 893 | 890 | 45 | 5 |
| pr | мы1 | 653 | 645 | 642 | 635 | 624 | 622 | 622 | 31 | 5 |
| uni | и1 | 3540 | 3494 | 3487 | 3467 | 3399 | 3395 | 3379 | 161 | 5 |
| pre | от1 | 372 | 366 | 365 | 364 | 356 | 355 | 355 | 17 | 5 |

カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリエントの分析

| | | | | | | | | | | |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|----|---|
| pr | весь1 | 283 | 281 | 278 | 278 | 271 | 271 | 270 | 13 | 5 |
| wf | то | 238 | 233 | 233 | 235 | 229 | 229 | 227 | 11 | 5 |
| pre | из1 | 479 | 480 | 474 | 471 | 462 | 462 | 461 | 18 | 4 |
| wf | все | 396 | 395 | 390 | 389 | 383 | 383 | 382 | 14 | 4 |
| pre | за1 | 400 | 398 | 398 | 397 | 387 | 387 | 386 | 14 | 4 |
| uni | как1 | 378 | 375 | 378 | 376 | 370 | 367 | 365 | 13 | 3 |
| pre | к1 | 521 | 516 | 522 | 518 | 504 | 504 | 504 | 17 | 3 |
| pre | в1 | 2938 | 2904 | 2912 | 2903 | 2855 | 2853 | 2844 | 94 | 3 |
| pr | вы1 | 471 | 471 | 470 | 469 | 456 | 457 | 456 | 15 | 3 |
| pre | на1 | 1173 | 1159 | 1166 | 1165 | 1146 | 1143 | 1137 | 36 | 3 |
| pr | мой1 | 648 | 643 | 642 | 642 | 633 | 631 | 629 | 19 | 3 |
| uni | но1 | 470 | 463 | 457 | 457 | 455 | 456 | 457 | 13 | 3 |
| pre | с1 | 1192 | 1181 | 1185 | 1174 | 1159 | 1159 | 1162 | 30 | 3 |
| part | не1 | 1313 | 1307 | 1298 | 1292 | 1287 | 1285 | 1282 | 31 | 2 |

上記のデータに含まれる品詞を集計すると、以下のようになるが、これらの大部分は形式的な意義の機能語となる⁴²。

| HI | 合計 | | |
|------|----|------------------|----|
| a | 5 | num | 1 |
| ad | 4 | part | 2 |
| con2 | 2 | pr | 15 |
| uni | 8 | pre | 13 |
| n | 3 | wf ⁴³ | 5 |

⁴² レビンは、機能語は一般にその量の多さから、個人語の特徴を示す重要なデータになると言っている。レビン(1964), стр. 87

⁴³ 注50とそれに関連する本文を参照。

このリストの中、名詞 (n) の *окошко* → *окно* と、代名詞 (pr) の *оный*、*какой-to* については、すでに前節で取り上げた。形容詞 (a) については、*моральный* と *нравственный*、*интересный* と *любопытный* が相互に関連しているが、これは 11 節で検討する。次節からは主に機能語について検討する。

§ 8 単行本 1 版 (P 1) から 2 版 (P 2) での変化

前節の高頻度語の変遷のリストを見ると、P 1 から P 2、または P 2 から S 1 で大きな数値的变化が観察されるが、この節では P 1 から P 2 における変化を見てみよう。

まず代名詞 (pr) のうち、指示代名詞の *сей* と *этот*、および上記リストにはないが語形 (wf) でカウントした *это* を加えると、それらの頻度の推移は次のようになる。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | M1-S3 | % |
|----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|
| pr | сей1 | 587 | 559 | 566 | 497 | 486 | 485 | 483 | 104 | 18 |
| pr | этот1 | 63 | 68 | 66 | 93 | 88 | 88 | 87 | -24 | -38 |
| wf | это | 85 | 85 | 84 | 96 | 90 | 90 | 90 | | -5 |

さらに版毎の差を計算してみると（以下で符号無しの数値は減少数を、+の数値は増加数を示す）、*сей* は P 1 と P 2 の間の差が 69 で最大の減少を、*этот* (*это*) は、P 1 と P 2 の間が +39 で最大の増加となり、両者は相補分布に近いと推定される。

| HI | LEX2 | M1 | - | M2 | - | P1 | - | P2 | - | S1 | - | S2 | - | S3 |
|----|------------|----|---|----|---|----|---|-----|---|----|---|----|---|----|
| pr | сей1 | | | 28 | | +7 | | 69 | | 11 | | 1 | | 2 |
| pr | этот1(это) | | | +5 | | 1 | | +39 | | 11 | | 0 | | 1 |

そこで、バリエント部の中で *сей* がどの様に変わったのか、形式的に分類

できる場合を調べ、сей が残っているものの数を数えると、

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|------------------|----|----|----|----|----|----|----|
| сей → ゼロ | 19 | 15 | 16 | 6 | 0 | 0 | 0 |
| сей → тот | 3 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| сей → их | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| сей → その他 | 4 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| сей → этот | 34 | 32 | 33 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| сей → этот → сей | 6 | 6 | 6 | 0 | 6 | 6 | 6 |
| ゼロ → сей | 1 | 0 | 1 | 3 | 4 | 4 | 4 |
| バリエント中の сей の数 | 69 | 62 | 63 | 17 | 10 | 10 | 10 |

ここから сей は、P1 から P2 への移行の段階において、脱落したり этот 等に大幅に書き換えられたことがわかる。またこの傾向は、P2 から S1 で完了されたと考えられる。その際どの様な条件下で сей が этот に書き換えられたのかを明らかにすることは、重要な問題であるが、сей は M1 で 587 回使われており、それら全てを具体的に調べるのは本論では手に余るので、この問題には触れなかった。Левинは、カラムジンの作品で сей は登場人物の言葉より、作者の言葉の中での方がより多く使われているが、カラムジンでのこの語の使用原則を定めるのは難しいとも言っている⁴⁴。なお興味深いのは、M1 からの сей を P2 で этот に書き換え、さらに S1 で сей に戻した例が、6 回あったことである。例えば：

только {в сей} улице не чувствовал я никакого неприятного запаха.
P2; в этой (⟨14⟩-45)

который хранит {сию} рукопись, как редкость, в своей библиотеке.

⁴⁴ Левин (1964), стр. 222

P2; エту

(<31>—29)

これと似たパターンを示すのは、*очень* と *весьма* である。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | M1-S3 | % |
|----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|----|
| ad | очень1 | 206 | 203 | 204 | 197 | 192 | 185 | 184 | 22 | 11 |
| ad | весьма1 | 90 | 83 | 70 | 64 | 66 | 66 | 65 | 25 | 28 |

очень と *весьма* は全体として、強調が多用されたセンチメンタリズムの文體から、次第に使用を減らす傾向にあり、その際両者は脱落することが多いが、*весьма* の一部は *очень* に書き換えられている。下記の数字はバリアント部の中で *очень* または *весьма* が残っている場合の数であるが、*весьма* の減少と、それに代わる *очень* の増加が見て取れる⁴⁵。

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|-------------------------|----|----|----|----|----|----|-----------------|
| очень → ゼロ | 25 | 25 | 21 | 15 | 9 | 2 | 2 ⁴⁶ |
| ゼロ → очень | 0 | 0 | 6 | 6 | 8 | 8 | 8 |
| バリアント中の <i>очень</i> 数 | 25 | 25 | 27 | 21 | 17 | 10 | 10 |
| | | | | | | | |
| весьма → ゼロ | 16 | 13 | 6 | 4 | 1 | 1 | 0 |
| ゼロ → <i>очень</i> | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| バリアント中の <i>весьма</i> 数 | 20 | 17 | 6 | 4 | 1 | 1 | 0 |

またここでも *сей* → *этот* → *сей* と同じように、*весьма* → *очень* → *весьма*

⁴⁵ *весьма* は $16+4=20$ の減少、*очень* は $8+4=12$ の増加となる。

⁴⁶ S 3 でゼロでなく 2 なのは(<34>—30)のように、*очень* が 2 個から 1 個に減少した場合なども含むためである。

Гердер не высокого росту,... и лицем 30_{очень не бел.}

M12; *очень* не бел.

の経過を示す、戻し過ぎを直した例も見られる。

головной убор женщин здесь {весьма странен.} ($<46>$ —24)

M2; странен.

P2; очень странен.

фигуры его {вообще весьма хороши;} ($<47>$ —19)

M2; хороши;

P12; очень хороши;

これまで検討してきた機能語は、P 1 から P 2 で減少していたが、増加で特徴付けられるものもある。それは 7 節の増加リストにある единственный だが、実際には副詞の *единственно* の形で現れる。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|----|--------------|----|----|----|----|----|----|----|
| ad | единственно1 | 5 | 5 | 6 | 10 | 13 | 13 | 13 |
| | 版別の差 | | 0 | +1 | +4 | +3 | 0 | 0 |

内訳は、

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|-----------------------|----|----|----|----|----|----|----------|
| только → единственно | 0 | 0 | 1 | 3 | 5 | 5 | 5 |
| ничего → единственно | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1^{47} |
| バリエント中の единственно 数 | 0 | 0 | 1 | 5 | 7 | 7 | 7 |

душа —— все сие существует {единственно} по тому, что вне нас

⁴⁷ ТОЛЬКО → единственно → ТОЛЬКО となるものや、文全体が変わり対応のとれないものもある。

существует,

(<26>—28)

M12, P12; только

сей город достоин примечания {только тем, что} древний его замок был
некогда столицею ...

(<9>—40)

M12, P1; только по тому, что

P2; единственno по тому, что

§ 9 単行本 2 版 (P 2) から著作集 1 版 (S 1) での変化

機能語が大幅に書き換えられ、また脱落して、『手紙』の文体に大きな変化
が生じたのは、実はこの段階であったと思われる。まず人称代名詞 я, он,
свой, себя から見てみよう。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | M1-S3 | % |
|----|-------|------|------|------|------|------|------|------|-------|----|
| pr | я1 | 2397 | 2355 | 2365 | 2344 | 2261 | 2256 | 2258 | 139 | 6 |
| pr | он1 | 1173 | 1152 | 1140 | 1130 | 1101 | 1103 | 1102 | 71 | 6 |
| pr | свой1 | 857 | 843 | 838 | 831 | 780 | 777 | 773 | 84 | 10 |
| pr | себя1 | 236 | 231 | 230 | 226 | 216 | 216 | 216 | 20 | 8 |

版毎の差を計算してみると：

| HI | LEX2 | M1 | — | M2 | — | P1 | — | P2 | — | S1 | — | S2 | — | S3 |
|----|-------|----|---|----|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| pr | я1 | | | 42 | | +10 | | 21 | | 83 | | 5 | | +2 |
| pr | он1 | | | 21 | | 12 | | 10 | | 29 | | +2 | | 1 |
| pr | свой1 | | | 14 | | 5 | | 7 | | 51 | | 3 | | 4 |
| pr | себя1 | | | 5 | | 1 | | 4 | | 10 | | 0 | | 0 |

モスクワ・ジャーナル 2 版は「初版に対して変更なしで印刷された」とさ
れているが、人称代名詞 я について見てみると、M 1 から M 2 で 42 個の減と

カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリエントの分析

なっている。この値は、時間的に見た実際の移行 (M1 → P1) での 32 個の減少より大きく、M2 の刊行に際して、カラムジンがかなり手を入れたことを示している。なお最大の減少は P2 から S1 の 83 個であった。以下で *я* の減少について、変化のパターンを検討する。ただし人称代名詞は使用頻度が極めて高いので、手紙番号 1 から 40 までを調査した。

| M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|-----------------------------|----|----|----|----|----|-----|
| <i>я</i> ⁴⁸ → ゼロ | 34 | 24 | 25 | 16 | 0 | 0 |
| <i>я</i> → <i>ваш друг</i> | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| <i>я</i> → <i>мы</i> | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 等 |
| バリエント中の <i>я</i> の数 | 40 | 28 | 26 | 17 | 0 | 0 |

ロシア語では動詞現在形は人称変化をするため、基本的に人称代名詞 *я* の表示は過剰だが、ここでは動詞現在形と共に起した *я* だけでなく、人称と対応しない過去形と共に起した *я* やその斜格形も脱落している⁴⁹。

во всем своем путешествии {не увижу} ни одного человека

M12, P12; не увижу *я* (⟨32⟩-02)

Едва ли когда нибудь {чувствовал} так живо, (⟨25⟩-06)

M12, P12; чувствовал *я*

все меня сердило. везде, {казалось,} брали с меня лишнее

M1; казалось *мне*, (⟨3⟩-04)

с отменным удовольствием {смотрели *мы*} (⟨4⟩-21)

⁴⁸ *я* の斜格形も含む。

⁴⁹ 本論 12 節の結語で例示した手紙 3 の書き出しの部分も参照。

M1, P1; смотрел я

М2; смотрел

когда я шел к $\{\mathcal{D}^{***},$ желаю} найти в нем хотя часть любезных свойств нашего A^* ($\langle 14 \rangle - 35$)

M12, P1; Δ^* . Как желал я

Р2; *Д^{*}*. Как хотелось *мне*

同様に人称代名詞 *оh* を、手紙番号 1～40 で検討した結果を下記に示す。なおコンコーダンス編纂の際に作成したデータベースでは、*ero* はその頻度が高いため、人称代名詞と所有代名詞の区別をせず、語形 (wf) で処理している。そのため本論でも *ero* 及び、同じ語形処理をした *ee*, *что*, *то*, *все* は扱わなかった⁵⁰。

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|-----------------------|----|----|----|----|----|----|-----------------|
| OH → ゼロ ⁵¹ | 27 | 21 | 19 | 11 | 0 | 0 | 0 |
| 普通名詞等 → OH | 0 | 1 | 2 | 4 | 8 | 8 | 8 ⁵² |

Дай человеку все, {чего желает:}

(<8>-21)

М12; чего он желает:

то гусар с досадою {бросил} деньги на плащ и ускакал

М1: бросил $e\gamma\nu$

$$(\langle 15 \rangle - 49)$$

⁵⁰ Urai (2000), xix.

⁵¹ OH → ゼロでの OH は、ero を除く斜格も含み、ゼロはそれが固有名詞に替わった場合も含んでいる。

⁵² P 2だけでOHが生じる場合($\langle 17 \rangle - 40$ 等)などは、どう数えてよいか難しい。

カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリエントの分析

он приступил к Шафнеру, {и требовал,} ($<27>$ —04)
M12, P1; и требовал от *него*,

тридцать пять лет известен {Виланд} в Германии как Автор.
M12, P12; *он* ($<34>$ —54)

взглянув на своего сопутника и на меня. {Он} зевнул,
M12, P12; Сопутник ея ($<22>$ —27)

свой, себя では, 手紙番号 1～95 の全部で調査した。数値は свой, себя を含むバリエント部の数を示すが, P 2 から S 1 で大幅な減少が見てとれる。

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S 1 | S 2 | S 3 |
|------------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| свой → ゼロ | 37 | 34 | 29 | 28 | 8 | 5 | 0 |
| его, сего → свой | 0 | 0 | 3 | 5 | 4 | 4 | 6 |
| себя → ゼロ | 15 | 12 | 10 | 6 | 0 | 0 | 0 |
| ゼロ → себя | 0 | 0 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 |

以上, 人称代名詞 *я*, *он*, *свой*, *себя* を見てきたが, これらでは, 版毎の差の数値でも, バリエント部での変化を具体的に調査した場合でも, P 2 から S 1 の間で大きく減少し, 不連続面があることがわかる。

人称代名詞 *она* については, 版毎の差でみると, P2-S1 に大きな差があるが, 実際にバリエント部での変化を調査すると, 文全体の変化で減少が生じるものが多く, パターン化できる特徴は見つけられなかった。このことは *мы*, *вы* についても言えるが, *мы*, *вы* については減少数の割合が, 前者では 5 %, 後者では 3 %しかないことから, この減少は体系的な変化ではないと考えることも出来よう。

| HI | LEX2 | M1 | — | M2 | — | P1 | — | P2 | — | S1 | — | S2 | — | S3 | % |
|----|------|----|---|----|---|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| pr | она1 | | 5 | | 0 | | 1 | | 23 | | 1 | | +1 | | 10 |
| pr | мы1 | | 8 | | 3 | | 7 | | 11 | | 2 | | 0 | | 5 |
| pr | вы1 | | 0 | | 1 | | 1 | | 13 | | +1 | | 1 | | 3 |

関係代名詞 *который* と、指示代名詞 *tot* で版毎の差を計算してみると：

| HI | LEX2 | M1 | — | M2 | — | P1 | — | P2 | — | S1 | — | S2 | — | S3 |
|----|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|---|----|
| pr | который1 | | 16 | | 1 | | 4 | | 20 | | 1 | | 4 | |
| pr | tot1 | | 20 | | +4 | | 17 | | 29 | | 0 | | 1 | |

который がバリアント部でどのように変わったのかを検討すると、以下のようにになり、同じく P2 と S1 の間に不連続面があり、関係代名詞による構文が減ったことがわかる。

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|----------------|----|----|----|----|----|----|-------------------|
| который → ゼロ | 12 | 8 | 11 | 9 | 1 | 0 | 0 |
| который → 形動詞化 | 10 | 10 | 8 | 8 | 3 | 3 | 0 |
| 形動詞 → который | 0 | 1 | 0 | 1 | 3 | 3 | 3 |
| ゼロ → который | 0 | 0 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 等 ⁵³ |
| バリアント中の数 | 22 | 19 | 22 | 22 | 10 | 9 | 6 |

который → ゼロの場合：

{дорога усеяна корчмами, и все оне в проезд мой} были наполнены гуляющим народом (*<3>-39*)

M1, P1; Корчмы, *которыми* усеяна дорога, в проезд мой

P2, M2; Бесчисленные корчмы в проезд мой

⁵³ 明確な対応が決められない場合や、文全体が変わり対応が見つからない場合がある時には、「等」で示す。

カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリエントの分析

и состоит из разных {алей: одне} идут во всю длину его,
M12; алей, из *которых* одне (⟨14⟩-79)

женщина, {родом из Шведской Померании} (⟨9⟩-35)
M1, P12; *которая* была родом из Шведской Провинции,
M2, S1; родом из Шведской Провинции,

который → 形動詞化の場合

много великолепных домов, {строенных} отчасти по образцу
огромнейших Римских палат, (⟨17⟩-08)
M12, P12; *которые* построены

потом ввели всех в большую залу, {обитую} черным сукном,
M12, P12; *которая* обита была (⟨32⟩-11)

これに対して指示代名詞 TOT は、より複雑な経過を示す。TOT は『手紙』の中で、時を示す *по том* の形で M1 から P2 までの各版で 16 回以上使われ、それが S1 以降ほとんど消えてしまう。しかしそれらが *по том* → *потом* と綴りが変わって残っているわけではないことは、下記の *потом1* の頻度表からも明らかである。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | M1-S3 |
|----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| pr | tot1 | 486 | 466 | 470 | 453 | 424 | 421 | 420 | 66 |
| ad | потом1 | 36 | 34 | 36 | 36 | 36 | 35 | 34 | 2 |

чувствует желание подражать Героям, {и жить} в памяти потомства.
M1, P1; и *по том* жить (⟨14⟩-61)

{Я хотел — было} видеть Энгеля, (⟨19⟩-11)

M1, P12; *По том* хотел было яM2; *По том* хотел я

tot に関してはこの他に、関係代名詞・副詞と呼応したものが消える場合や、по тому, что の構文がコロンに替わる場合、для того の形で文が加わる場合など、様々な場合が見られる。

ты увидишь 21_{моих любезных};} (⟨14⟩-21)

M1; *тех, кого я столь люблю:*M2; *тех, которых я столько люблю:*

которой имя очень {известно:} подле нее было сражение ...

M12, P12; известно *по тому, что* (⟨41⟩-03)

バリアント中の tot の増減を計算すると以下のようになり、ここでも P2 と S1 の間の不連続が見て取れる。

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|---------------|----|----|----|----|----|----|-----|
| по том → ゼロ | 23 | 17 | 23 | 16 | 3 | 0 | 0 |
| tot の減少 | 16 | 14 | 7 | 7 | 3 | 3 | 0 |
| tot の増加 | 0 | 0 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 等 |
| バリアント中の tot 数 | 39 | 31 | 33 | 26 | 9 | 6 | 3 |

一方前置詞について版別の差を調べてみると、以下のようになった。

| HI | LEX2 | M1 | – | M2 | – | P1 | – | P2 | – | S1 | – | S2 | – | S3 | % |
|-----|--------|----|-----|----|----|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| pre | по1 | 28 | +10 | 27 | 50 | 5 | 2 | 21 | | | | | | | |
| pre | при1 | 6 | +1 | 3 | 4 | 0 | 0 | 15 | | | | | | | |
| pre | перед1 | 4 | 0 | 5 | 3 | 0 | 0 | 14 | | | | | | | |
| pre | под1 | 3 | 3 | 8 | 1 | 1 | 0 | 13 | | | | | | | |

カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリエントの分析

| | | | | | | | | |
|-----|-----|----|----|----|----|---|----|---|
| pre | у1 | 4 | 8 | +2 | 9 | 0 | 1 | 7 |
| pre | до1 | 2 | 2 | +3 | 11 | 0 | 0 | 7 |
| pre | от1 | 6 | 1 | 1 | 8 | 1 | 0 | 5 |
| pre | из1 | +1 | 6 | 3 | 9 | 0 | 1 | 4 |
| pre | за1 | 2 | 0 | 1 | 10 | 0 | 1 | 4 |
| pre | к1 | 5 | +6 | 4 | 14 | 0 | 0 | 3 |
| pre | в1 | 34 | +8 | 9 | 48 | 2 | 9 | 3 |
| pre | на1 | 14 | +7 | 1 | 19 | 3 | 6 | 3 |
| pre | с1 | 11 | +4 | 11 | 15 | 0 | +3 | 3 |

この表からわかるのは、大部分の前置詞は、差の値も比較的小さくて、なだらかな減少を示しているが、その中で P 2 から S 1 の間で数値的に大きな差を示すのは по と в である。しかし в については、減少数の割合をみると、それが 3 % しかないことから、この減少は体系的な変化ではないと考えられる。実際に в について、手紙 1 ~ 40 でバリエント部での変化を調査したが、パターン化できるような特徴は見つけられなかった。

これに対して по は、減少数の割合も 21% と高く、大幅な書き換えがあつた。前述の по TOM → ゼロはここにも関連している。

| | M1 | M2 | P 1 | P 2 | S 1 | S 2 | S 2 |
|---------------|----|----|-----|-----|-----|-----|-----------------|
| по TOM → ゼロ | 23 | 17 | 23 | 16 | 3 | 0 | 0 |
| по → ゼロ | 16 | 15 | 15 | 12 | 2 | 1 | 1 ⁵⁴ |
| по → 他の前置詞等 | 14 | 13 | 11 | 11 | 1 | 0 | 0 |
| по の増加 | 0 | 1 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 |
| バリエント中の по の数 | 53 | 46 | 51 | 42 | 8 | 3 | 3 |

⁵⁴ 1 が残るのは、下記の例 <6> - 17 のため。

{просто сказать,} (*<3>*—36)

M12, P12; *по* просту сказать,

то даю волю глазам своим бродить {по лугам и полям,}

M1; по полям и *по* лугам, (*<6>*—17)

{и хотя изредка} уведомляйте меня о себе. (*<34>*—50)

M1, P12; и *по* временам

M2; и от времени до времени

{для чего ?} (*<7>*—34)

M12, P12; *по* чему ?

{Для того,} (*<7>*—35)

M12, P12; *По* тому,

{вышел на берег,} (*<4>*—20)

M12; пошел гулять *по* берегу,

副詞で減少数の割合が高いものは、 поутру, весьма, почти, очень であるが、その内 оченьと весьмаは既に8節で取り上げたので、ここでは поутруと почтиを検討する。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | M1-S3 | % |
|----|---------|----|----|----|----|----|----|----|-------|----|
| ad | поутру1 | 41 | 40 | 39 | 39 | 29 | 29 | 29 | 12 | 29 |
| ad | почти1 | 74 | 71 | 71 | 69 | 65 | 63 | 63 | 11 | 15 |

これらについて版別の差を調べてみると、以下のようになった。

カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリエントの分析

| LEX2 | M1 | — | M2 | — | P1 | — | P2 | — | S1 | — | S2 | — | S3 |
|---------|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| поутру1 | 1 | | 1 | | 0 | | 10 | | 0 | | 0 | | |
| почти1 | 3 | | 0 | | 2 | | 4 | | 2 | | 0 | | |

поутруは、始め 41 回使用されているが、M1 から P2 までほぼ保たれ、S1 でその内の 10 個が一度に書き換えられている⁵⁵。その内わけは、

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 |
|----------------------------------|----|----|----|----|-----|
| ныне/завтра поутру → ныне/завтра | : | 6 | 6 | 6 | 0 |
| поутру → утро | : | 3 | 2 | 1 | 1 |
| поутру → ゼロ | : | 2 | 2 | 2 | 0 等 |

{Ныне} получил я вдруг два письма от А*, (*<32>-01*)

M12, P12; Ныне поутру

Вчера в восемь часов {утра} пошли мы с Б* из Цириха.

M12; поутру (*<55>-02*)

一方 почтиは P2 から S1 で急激に変わるのでなく、徐々に使用が減っていくパターンで、副詞句から почтиが脱落する場合が多い。

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|------------|----|----|----|----|----|----|-----|
| почти → ゼロ | 11 | 9 | 7 | 6 | 2 | 0 | 0 |
| ゼロ → почти | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 2 | 2 等 |

{Рассветало.} (*<9>-42*)

M1; *Почти* совсем рассветало.

⁵⁵ 特に手紙の書き出しの部分で生じている。

Тут {стоят перпендикулярно} огромные гранитные скалы !

M12, P12; подымаются *почти* перпендикулярно (⟨26⟩-33)

домы {все} готические, (⟨26⟩-35)

M12, P12; *почти* все

他の機能語としては、接続法を示す *бы* と *чтобы* があり、減少数の割合も 10% と高いが、これらではバリエントで文が大幅に書き換えられることが多く、適切な対応を決めるのが難しかった。

接続詞 *и* については M1 から P3 での減少数が 161 と一番多いが、出現総数 (3540) も一番多く、結果として減少数の割合は 5% と少なくなる。実際に手紙 1~40 での場合を調べたが、特徴的な変更は見られなかった。

これに対して接続詞 *или* では、大きな不連続面は見られないが、6 節で述べたように、*или* の意義の中「換言すれば」で、借用語に対応するロシア語の導入に使われることが多々ある。この語結合は比較的安定しており、そのまま保たれているものが多いが、借用語が脱落すると、関連する *или* も脱落する⁵⁶。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | M1-S3 | % |
|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|---|
| con2 | или1 | 245 | 240 | 237 | 233 | 232 | 232 | 231 | 14 | 6 |
| 版別の差 | | 5 | 3 | 4 | 1 | 0 | 1 | | | |

наняли мы здесь извозчика, *или* так называемого кучера (Kutscher) (⟨48⟩)

⁵⁶ *или* の減少が主に M12 → P1 の段階で生じているのも、6 節で検討した借用語の減少に関係していると思われる。

В то же самое время увидел я и верхний глетчер, *или* ледник;
(<65>)

как Немцы прилежали только к сухой {учености}
M12; учености *или* эрудиции (<34>—56)

追加された例

ибо человек сам по себе есть {фрагмент *или* отрывок:}
M12; фрагмент: (<90>—07)

以上の検討結果から、P 2 から S 1 で大きく減少した機能語は、人称代名詞の я, он, свой, себя, 関係代名詞 который, 指示代名詞 тот, 前置詞 по と一部の副詞であった。これに前節の指示代名詞 сей → этот の書き換えと、 весьмаの脱落などを加えると、P 12 から S 1 における機能語の変化は、相当大きかったことがわかる。このような現象を総合的に考え、これらがカラムジンの文章にどのような統語論的変化をもたらしたのか、それが現代ロシア文章語とどう関連しているかを考察するのは、極めて重要な課題と思われる。しかし本論は語彙的レベルでの検討を中心としており、また比較できる適切なデータが無かったためこの面からのアプローチは出来なかった。

§ 10 単行本 (P 12) から著作集 1 版 (S 1) での借用語と古語・口語の変化

第 8, 9 節では高頻度の機能語の、単行本 1, 2 版から著作集 1 版までの変化を検討してきたが、この節では、同時期の借用語と古語・口語の変化を見てみよう。

M 1, 2 → P 1 を扱った 6 節では、借用語が単純に置き替わった場合が多いが、ここでは гармонировать のように、表現のかなり大きな書き換えがある場合や、процес のように、何度も語が入れ替わっているもの (процес → дело

→ спор → дело) もあり, 6節での書き換えとはかなり様相が異なっている。興味深い例を (***) で示し, 下記に示した⁵⁷。

(M1, P1 → P2)

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | 書き換え |
|----|-----------------|----|----|----|----|----|----|----|-----------------|
| n | балансирование1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | прыгание *** |
| n | нота1 | | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | счет |
| n | профессия1 | | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 *** |
| n | процес1 | | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | *** |
| n | родомонтад1 | | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | хвастовство *** |
| n | энергия1 | | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | *** |
| n | соучаствование1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | участвование |
| n | челночек1 | | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | челн |

(M1, P12 → S1)

| | | | | | | | | | |
|---|----------------|---|---|---|---|---|---|---|---------------|
| v | гармонировать1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | согласнее *** |
| a | партикулярный1 | 3 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | частный |
| n | публикование1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| n | регулярность1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| n | руина1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | развалина |
| n | дщерь1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | дочерь *** |
| v | ретироваться1 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | *** |

{.. не смотря на все свое искусство в прыжании ..} (⟨66⟩-08)

M1, P1; .. не смотря на все свое искусство в *балансировании..*

⁵⁷ 対応がはっきりしないもの, ⟨16⟩-03 の長文のバリエントで, 脱落した文の中で使われていた口語の *всегдашний* などは除いている。

M2; .. бедная погибает ..

Господин П* хотя и не есть {Ученый,} однакожь много читал ...

M1, P1; Ученой по *профессии* (*<23>*—12)

{Ширмейстер решил дело в его пользу,} (*<11>*—03)

M1; Ширмейстер решил *процес* в пользу последнего,

M2; Ширмейстер решил дело в пользу последнего,

P1; Ширмейстер решил *процес* в его пользу,

P2; Ширмейстер решил *спор* в его пользу,

который {от страшного хвастовства своего} прослыл шарлатаном ...

M12, P1; от страшных своих родомонтад⁵⁸ (*<47>*—47)

мы друг с другом {гораздо согласнее,} нежели с Офицерами.

M12, P12; *гармонируем* более, (*<11>*—13)

{и слабеет сердцем;} (*<78>*—03)

M1, P1; и лишается *энергии* в ощущениях;

M2; и лишается *энергии* сердечной;

она (=лилия) вновь пробудится от зимнего сна своего и восстанет в новой весенней красоте, подле милых {дочерей} бытия своего,

M12, P12; *дщерей* (*<33>*—29)

вежливый хозяин уступил ему свою постель, накормил Геркулеса (забыв, что он часа за два перед тем испугал его не на шутку), {и ушел}

⁵⁸ rodomontade : (伊→仏) 虚勢

M1, P12; и *ретировался*

(<90>—26)

M2; и скрылся

<33>—29 の格調高いヘルダーの文の引用で、単行本2版まで保たれていたスラブ語形の *дщерь* が、著作集1版でロシア語形の *дочерь* に変わったことは、カラムジンの規範の変化を示すものと考えることも出来よう。また *ретироваться* の例文に出てくる Геркулес は犬の名前で、この文は *ретироваться* という軍隊用語を使ったおどけた表現となる。

一方ロシア語から新たに S1 で導入された借用語も、数は少ないが存在する。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | 書き換えられた語 |
|----|---------|----|----|----|----|----|----|----|-------------|
| n | оракур2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | прорицалище |
| n | символ1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | * * |
| n | фантом1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | призрак |

сие было бы для нас весьма печальным {символом — —}

M12; образом — —

(<33>—24)

P12; примером — —

§ 11 著作集2版以降の変化

著作集2版はこの作品のほぼ最終的な形とされるが、第7節で保留にした、*моральный* と *нравственный*、*интересный* と *любопытный* の形容詞と、同じ語幹の若干の名詞などがここに関連する。版別語彙集計表でこれらの語幹を含む諸語の頻度を見てみると、

カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリエントの分析

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | M1-S3 |
|----|-----------------|----|----|----|----|----|----|----|-------|
| n | моралист1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| n | мораль1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | |
| a | моральный1 | 12 | 12 | 12 | 12 | 13 | 0 | 0 | -12 |
| n | нравоучение1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | |
| n | нравственность1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 4 | 4 | |
| a | нравственный1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 10 | 11 | +10 |
| a | интереснейший1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | |
| a | интересный1 | 14 | 13 | 13 | 11 | 6 | 1 | 1 | -13 |
| a | неинтересный1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| v | интересоваться1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| a | любопытный1 | 6 | 6 | 6 | 6 | 10 | 14 | 14 | +8 |
| a | занимательный1 | 4 | 5 | 4 | 7 | 6 | 6 | 6 | |
| a | национальный1 | 6 | 6 | 6 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| n | нация1 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 7 | 7 | |
| n | народ1 | 37 | 38 | 36 | 36 | 36 | 39 | 39 | |
| a | народный1 | 4 | 4 | 5 | 6 | 7 | 7 | 7 | |

先ず、語幹 *мораль-* はほとんど全てが、S 2 で一挙に語幹 *нрав-* に書き換えられた。

моральный → нравственный : 7

моральный → нравственность, ゼロ : 4 等

мораль → нравственность, нравоучение : 2

могут распространить в своем отечестве опасную {нравственную}

болезнь,(<59>−04)
 M12, P12, S1; моральную

в ней безденежно учатся 60 молодых девушек читать, писать, арифметике, правилам {нравственности} и экономии:(<57>−34)

M12, P12, S1; морали

なお моральで唯一残った例は、手紙 28 での講義題目であった。
 когда Профессор**, преподавая нам, маленьким своим ученикам,
 Мораль по Геллертовым лекциям (Moralische Vorlesungen),(<28>)

интересныйでも様々な書き換えが行われたが、対応する語は様々である。

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|----------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|
| интересный → любопытный | 5 | 5 | 5 | 5 | 3 | 0 | 0 |
| интересный → 他の形容詞 ⁵⁹ | 6 | 5 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| интересный → ゼロ | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| バリエント中の интересный の数 | 13 | 12 | 12 | 10 | 5 | 0 | 0 |

которая делает ее {любезною} для зрителя.(<16>−16)
 M12; тем *интереснее*

прочитав его ANTON REISER, весьма {любопытную}
 психологическую книгу(<19>−01)
 M12, P1; *интересную*
 P2; занимательную

⁵⁹ <19>−01 のように интересный → занимательный → любопытный と変化する例もいくつかある。

я сомневаюсь, чтобы сам Йорик нашел тут много {занимательного}
 M12, P12, S1; *интересного* (⟨38⟩-04)

встреча с Француженкою, маленькой Пьер, белка, злая белка, {новая}
 знакомства, водопады, горы, девица Г** — — (⟨84⟩-05)

M12, P12, S1; *интересны*

最後まで残った唯一の *интересный* の例は, 原文でもイタリック体であり,
 カラムジンが特別なニュアンスをこめて使ったと思われる。

и сказал (Платнер), что хочет ужинать со мною в таком месте, где я
 увижу некоторых *интересных людей*. (⟨29⟩ ; 064_28⁶⁰)

нацияとнародの関係は, 上記ほど徹底したものではなく, нацияはS3でも半分以上は変化せずに残っているが, 両者には下記のような対応が見られた。

| | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|-------------------------|----|----|----|----|----|----|----|
| нация → народ | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 0 |
| нация → ゼロ | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| национальный → народный | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| バリエント中の нация の数 | 6 | 6 | 6 | 4 | 4 | 0 | 0 |

ибо вкус {народов} переменяется со временем;
 M12, P12, S1; наций

естьли бы {из народной} брани можно было заключать {о народном}

⁶⁰ Карамзин (1984) のテキスト 64 ページ 28 行目を示す。

характере,

(<21>-01, <21>-02)

M12, P1; из национальной

M12, P1; о национальном

一方 *natura* と *природа* に関しては以前の論文で、前者が「自然の力、造化」を示すのに対して、後者は「自然界、環境」の意味で使われていることを指摘したが⁶¹、以下の版別集計値からも、その原則は揺らいでおらず、そのまま持続されていることがわかる。なお S2 と S3 で両者に増減があるのは、手紙 81 以降で引用されるスイスの哲学者ボネの著作『自然観想』(Contemplation de la Nature) のロシア語訳が、Рассматривание Натуры から Созерцание Природы に変わったことによる影響が大きい⁶²。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 |
|----|-------------|----|----|----|----|----|----|----|
| n | натурал1 | 53 | 53 | 53 | 53 | 52 | 45 | 45 |
| n | натуралист1 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| n | природа1 | 32 | 33 | 33 | 33 | 31 | 35 | 35 |
| a | природный1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |

この段階で消えた上記以外の借用語は、以下のようである。

⁶¹ 浦井 (1990) p. 37 なお *натуальный*, *ненатуральный*, *натуальность* については、すでに本論§ 6 で検討している。また丹辺も、*natura* と *природа* の意義の違いに対して、後者が「人間を取り巻く自然」という傾きがあるのに対して、前者は「人間を越える力を備えたものまで包み込むもの」という傾きがあると述べている。丹辺(1977), pp. 456-457。

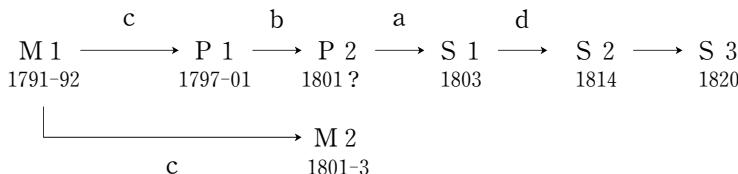
⁶² *natura* と *природа* の語彙的差異を上記のように捉えると、「自然界の熟視」の意味では、*природа* の方がふさわしいと思われる。

| HI | LEX2 | M1 | M2 | P1 | P2 | S1 | S2 | S3 | 書き換え |
|----|--------------------------|----|----|----|----|----|----|----|-------------|
| n | концилиум1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | собор |
| n | фобур1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| n | фурман1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | извощик |
| a | гигантский1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | исполинский |
| a | патетический1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | пышный |
| a | характерис— тический1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | характерный |

この段階で書き換えられた借用語はあまりないが、*моральный*と*интересный*の減少と合せると、いくつかの借用語幹の形容詞が消えているのが特徴的と言えるかもしれない。

§ 12 結語

4節の「各版の連續性と不連續性」で示したように、『手紙』のバリアントの変遷には、4つの局面があり、以下の図式に従って各節で順次分析した。



§ 6 : c ; モスクワ・ジャーナル (M 1, 2) から単行本1版 (P 1) での変化

§ 8 : b ; 単行本1版 (P 1) から2版 (P 2) での機能語の変化

§ 9 : a ; 単行本2版 (P 2) から著作集1版 (S 1) での機能語の変化

§ 10 : ab ; 単行本 (P 1, 2) から著作集1版 (S 1) での借用語と古語・口語の変化

§ 11 : d ; 著作集2版 (S 2) 以降の変化

その結果、カラムジンの『手紙』のテキスト・バリアントには、次の三段

階の変化があったと考えられる。

- ・第1段階(cのM1, 2→P1)：シポフスキーがварваризмと呼び、当時のロシア語では十分こなれていなかったと思われる借用語が書き換えられた。ただこれらの語は、単発的で孤立的なものが多かった。一方古語・口語の語彙は、始めからあまり多くは使われていなかったが、それらも書き換えられた。
- ・第2段階(abのP1, 2→S1)：版別語彙集計表から明らかのように、代名詞、前置詞、副詞などの機能語に関して、始めP1→P2で特定の幾つかの語が、次いでP2→S1で機能語の相当数が、大幅に書き換えられ、また脱落し、カラムジンの文体にかなり大きな変化が生じた。借用語、古語・口語については、単純な書き換えではなく、表現の変化がなされたものが多い。
- ・第3段階(dのS2→S3)：概念を示すいくつかの用語で、その語幹を借用語幹からロシア語語幹に書き換えて精密化した。

以上の分析結果により、「カラムジンの文章は過度のガリシズムで満ちている」といった通説は、印象批評に過ぎず、この問題は早い時期にほぼ解決され、カラムジンがむしろ腐心したのは、ロシア語固有の機能語の使用であったと考えられる。そしてこのような過程を経て、今日われわれが『手紙』で読むことの出来るカラムジンの文章、つまり彼の「文章語」が確定したと言うことが出来よう。

最後に、カラムジン自身の校正によってテキストが具体的にどの様に変わったのかを、手紙3の書き出しの部分で例示してみよう。{ }内は最初のモスクワ・ジャーナル1版での形を、S3以下に最終的な著作集3版の形を示したが、機能語について本論で指摘した現象を各所に見ることが出来る。

〈3〉

Рига, 31 Мая 1789.

Вчера, любезнейшие друзья мои, приехал я в Ригу, и остановился в Hotel de Petersbourg. Дорога меня {очень} измучила.}

S3; измучила.

Не довольно было сердечной грусти, которой причина вам {конечно} известна:}

S3; известна:

надлежало еще идти сильным дождям; {надобно еще было, чтобы я в Петербурге не купил своей повозки, поехал на перекладных}

S3; надлежало, чтобы я вздумал, к нещастью, ехать из Петербурга на перекладных,

и нигде не находил хороших кибиток. Все меня сердило. Везде, {казалось мне,}

S3; казалось,

брали с меня лишнее; {или заставляли меня слишком долго дожидаться.}

S3; на каждой перемене держали слишком долго.

Но нигде не было мне так горько, как в Нарве. Я приехал туда {весь мокрой. Насквозь промоченная постеля и грязью забрызганные подушки были печальным предметом для глаз моих. Насилу мог я}

S3; весь мокрой, *весь в грязи*; на силу мог

найти купить две рогожи, чтобы сколько нибудь закрыться от дождя, и заплатил за них по крайней мере как за две {добрья кожи.}

S3; кожи.

Кибитку дали мне негодную, лошадей скверных. Лишь только отъехали с полверсты, переломилась ось; {кибитка упала, и я с нею *повалился в грязь*.}

S3; кибитка упала в грязь, и я с нею.

Илья мой поехал с ямщиком назад за осью, {а я остался подле кибитки на сильном дожде. Этого еще мало было:}

S3; а бедный *ваш* друг остался на сильном дожде. Этого еще мало: пришел какой-то Полицейской, и начал шуметь, что кибитка моя стояла середи дороги. Спрячь ее в карман! Сказал я с притворным равнодушием, и завернулся в плащ. Бог знает, каково мне было в эту минуту! {Все *те* приятные образа, в *которых* представлялось *мне* путешествие,}

S3; все приятные мысли о путешествии затмились в душе моей. О естьли бы {много было мне тогда}

S3; мне можно было тогда перенестись к вам, друзья мои! Внутренно проклинал я {*то* никогда неспящее побуждение сердца человеческого,}***

S3; *то* беспокойство сердца человеческого, которое влечет нас от предмета к предмету, от верных удовольствий к неверным, как скоро первые {перестают быть для *нас* новыми — —}

S3; уже не новы — — которое настраивает к мечтам наше воображение, и заставляет нас искать радостей {в неизвестном будущем.}

S3; в неизвестности будущего !

なお上例の最後の部分で, ***を付けた箇所は, M 1 から S 13 で何度も書き直されている。その履歴を示すと :

M1; *то* никогда неспящее побуждение сердца человеческого,

P1; *то* беспокойное побуждение сердца человеческого,

P2; *то* беспокойное чувство сердца,

M2; *то* беспокойное чувство сердца человеческого,

S13; *то* беспокойство сердца человеческого,

Горшков (1982) は、フォン・ヴィジンの『フランスからの手紙』とカラムジンの『手紙』で、リヨンの病院の視察を記述した部分を比較して、前者では事実をそのままに述べているのに対して、後者の新文体では、事実のそのままの記述では文学表現として不十分であり、そこに迂言的な言い回しや感情的な過剰が求められると指摘した⁶³。上例の「常に変化を求める人間の心」に対する叙述も、これに関連するものと思われる。しかし M 1 から S 13 に移るに従い、その持つて回った表現もかなり整理されていくのが分かる。

ロシア語本来の語群からなるこのような表現は、本論の形式的な分析手法では、その網の目にはかからない。これらについてはバリエントの履歴を示したテキストを、詳細に目で追って行くしか方法はないと考えるが、そこでは語学よりむしろ文学的な問題が多く含まれていると思われる。

参考文献

テキストとコンコーダンス

Карамзин (1984): Карамзин Н. М., Письма русского путешественника. Издание подготовили Ю. М. Лотман, Н. А. Марченко, Б. А. Успенский, Л., Наука, 1984, Серии <Литературные памятники>

Urai (2000): Urai, Y., ed. A Lemmatized Concordance to Letters of a Russian Traveler of N. M. Karamzin. xix + 1375, Sapporo, Hokkaido Univ., 2000

研究書

Виноградов (1938 [1982]): Виноградов В. В., Очерки по истории русского литературного языка XVII–XIX веков. изд. 3-е, М., Высшая школа, 1982

⁶³ Горшков (1982), стр. 186–8. 彼はカラムジンの「Присмотр за больными также достоин хвалы всякого друга человечества — и где можно расточать ее с живейшим удовольствием?」という文を、以下のような段階の拡大で形成されたと言っている。『Присмотр за больными хороший』 → 『присмотр за больными достоин похвалы』 → 『достоин хвалы всякого друга человечества』 → 『— и где можно расточать ее с живейшим удовольствием?』

北大文学研究科紀要

Винокур (1943 [1959]): Винокур Г. О., История русского литературного языка. 1943, Избранные работы по русскому языку. М., УЧПЕДГИС, 1959

Горшков (1982): Горшков А. И., Язык предпушкинской прозы, М., Наука, 1982

Камчатнов (2005): Камчатнов А. М., История русского литературного языка XI — первая половина XIX века. М., Academia, 2005

Ковалевская (1992): Ковалевская Е. Г., История русского литературного языка. М., Просвещение, 1992

Левин (1964): Левин В. Д., Очерк стилистики русского литературного языка, конца XVIII — начала XIX в. (Лексика). М., Наука, 1964

Марченко (1984): Марченко Н. А., История текста «Писем русского путешественника». Карамзин Н. М., Письма русского путешественника., 1984, Серии «Литературные памятники», стр. 607–612

Сиповский (1899): Сиповский В. В., Н. М. Карамзинъ, авторъ «Писем русского путешественника». СПб., 1899

丹辺 (1977) : 丹辺文彦, 『「ロシア人旅行者の手紙」におけるカラムジンの同意語の用例について』, 1977 年, ロシアの思想と文学, 恒文社, pp. 445~474

藤沼 (1997) : 藤沼貴, 『近代ロシア文学の原点 ニコライ・カラムジン研究』, 1997 年, れんが書房新社

浦井 (1990) : 浦井康男, 『カラムジンにおける強調の大文字の使用について ——パソコンによる文字列検索を利用して ——』, 1990 年, ロシア語ロシア文学研究 第 22 号, pp. 28~40

浦井 (1996) : 浦井康男, 『ロシア語データベースの作成とその運用 —— lemmatized concordance の場合 ——』, 1996 年, ロシア語ロシア文学研究 第 28 号, pp. 93~107